



豊かな自然・  
かがやく文化  
それが、阿賀町

～「阿賀町15年教育」で未来の創り手を育む～

## 阿賀町学習指導センターだより

令和3年5月27日（木）№4

### 学校訪問より～三川小学校 松川久美先生の授業より～

単元4年算数「角の大きさのはかり方やかき方を考えよう」、第7時「 $180^\circ$ より大きい角度を工夫してかく」の授業です。



タブレット端末に表示された「アイテムボード(※1)」から、解決につながる既習事項を選択し、解決の見通しをもつ子ども(写真上)。

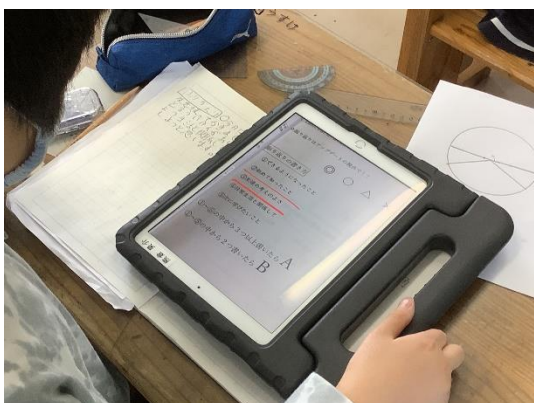
ほかの子がどのような方法で「 $180^\circ$ より大きい角度を書いたか」について、タブレット端末を通して見入る子ども(写真中)。

授業終末、松川先生より送られた「振り返り」の項目をチェックしながら、今日の振り返りをする子ども(下)

このように、子どもたちの情報は、松川先生のタブレット端末に集約され、子どもたちに一覧化されて、提示されます。

松川先生は、子どもたちの考えの見取りや共有、子どもへの資料提示等、タブレット端末を有効に活用していらっしゃいました。

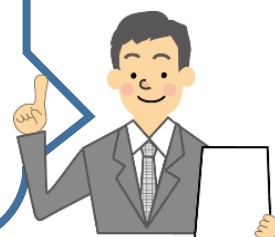
子どもたちも臆することなくタブレット端末を操作していました。タブレット端末等ICT機器を活用した授業を拝見することができました。

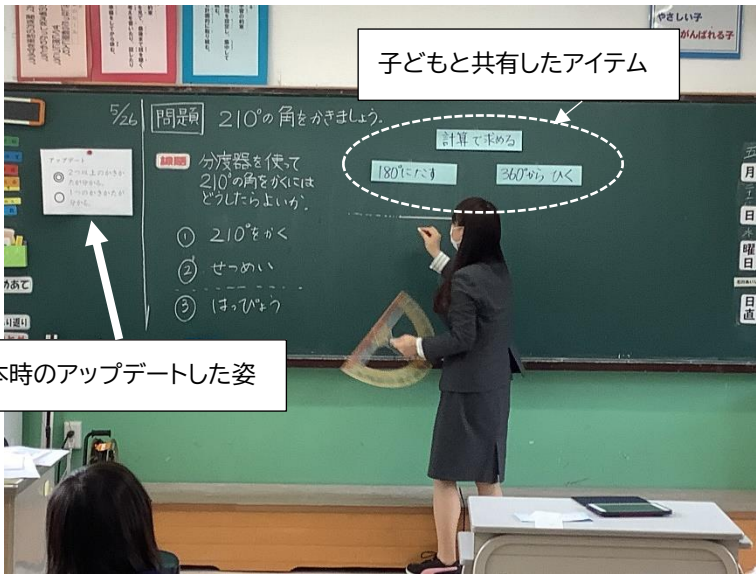


タブレット端末を授業へ導入するモデルの一つとなります。

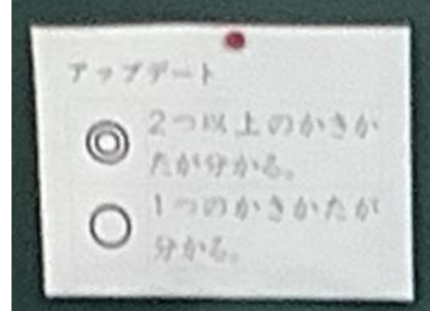
各校におかれましても、タブレット端末を活用した授業づくりを進めていることと思います。

ぜひ、タブレット端末を効果的に活用した授業のご提案をお願いします。





黒板左に、今日の授業を通して「アップデート」した姿が、導入で提示されました。この姿を目指し、子どもたちは課題解決に取り掛かりました。(↓写真拡大)



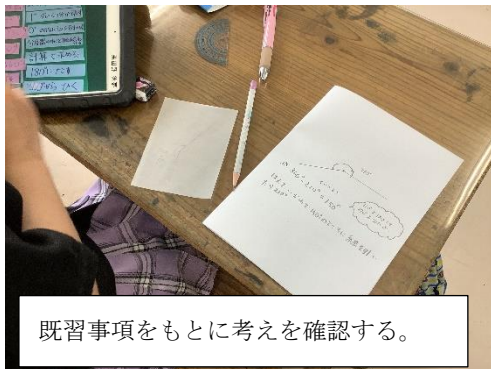
このように、学習を通じ、「自分は何ができるようになるか」、その指標がはっきりと示されていることで、子どもたちの学習意欲を高めることができます。

また、できるようになることがはっきりしていることで、「自分は何が分からないのか、そのため何ができないのか」の認知を促すこととなります。

その解決方法を既習事項に立ち戻ったり、他者との対話によって気付かされたりします。そして、改めて解決を進めることとなります。

学びを自己調整する子ども、協働的に学習する子どもが見えてきます。

もちろん、子どもたちの「分からなさ」を表出させ、ほかの子どもたちと共有させ、解決へ導く授業者の見取りはとても重要になってきます。



～授業協議をするにあたって～  
 子どもの学びの事実に即し、子どもがよりよく学ぶために、授業(づくり)はどうあればよいか、授業と研究計画をつなぎ、「みんな」で課題と成果を共有するという点で授業協議をしたいと考えております。ご協力をお願いします。

今後も、「ループリック、アイテムボード、アップデート」等の有効性について、授業づくりを通じて明らかにし、提案していただければ、阿賀町の子どもたちの学びの質の向上につながります。ぜひ、お願いします。

